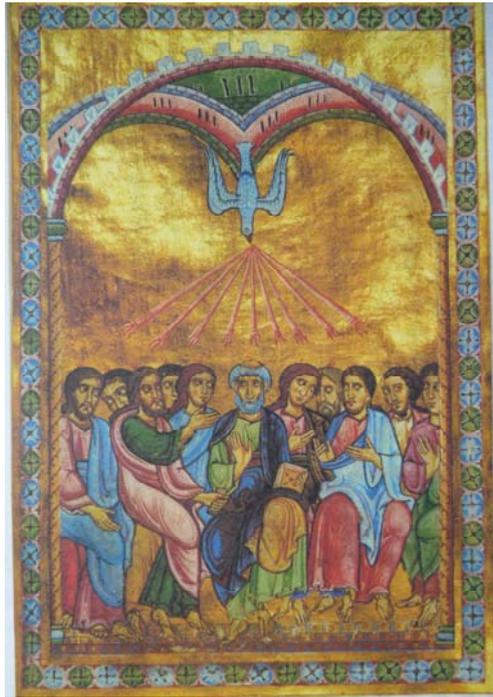


炎のような舌が分かれ分かれに  
現れ、一人一人の上にとどまっ  
た

(使徒言行録2章3節より)

## 聖霊降臨祭



交唱聖歌集挿絵  
ザルツブルク修道院付属図書館 12世紀

「復活祭」から50日目の日曜日、教会は、聖霊降臨の出来事ならびに教会と宣教活動の始まりを記念します。聖霊降臨の出来事を聖書は次のように記しています。

「五旬祭の日が来て、一同が一つに

なつて集まっていると、突然、激しい風が吹いてくるような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、「霊」が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話し出した。」

(使徒言行録2章1〜4節)

教会公文書は「聖霊降臨の日に、教会は多くの人の前に公に現わされ、説教によって諸国民への福音の宣布が始められた。そして、普遍的信仰において結ばれる諸国民の一致が新約の教会を通して予告された。この教会は、すべての国語を語り、愛を持ってすべての国語を理解し、受け入れ、こうしてバベルの離散を征服する。」第二バチカン公会議『教会の宣教活動に関する教令4』とし、聖霊降臨を教会活動の始まりとしています。

この日が復活祭の50日目にあたることからペンテコステ（ギリシヤ語で第50・五旬祭の意）とも呼ばれています。

(M・S)

わたしたちのまわりにいる すべてのひとが  
幸せになるよう はたらくこと  
これこそほんとうの愛のわざ

―聖ラファエラ・マリア―

「あなたがたの父が慈悲深いように

あなたがたも慈悲深い者となりなさい」

(ルカ6・36)

5月18日は創立記念日です。創立者聖ラファエラ・マリアはその手紙の中で、慈悲深いやさしさを

「周りの人に喜びを与えること、それが本当の愛です」と記しています。「慈悲深い者」について黙想したいと思いま

す。

ルカ福音書6章「平地の説教」(6・17〜49)に、イエスが目指しておられる新しい価値観・心の新しい持ち方、生活全体の新しい方向づけ・の基本が語られており、右記の句はその中で話されたことばです。また、イエスは「放蕩息子」のたとえで、父親の姿を通して神のいつくしみの心を余すところなく現わし、罪人も敵さえも大切にすることを忍耐と慈悲に満ちたお方であることを語っています。この御父に倣い、私達も出会う人を例外なしに大切にし、すべての人と人格的な触れ合いを持つように招かれています。

人を裁かず、自分にとって不快な人も許し、異なる考えに無関心にならず、受け入れ理解しようとする努力ができるのは、心の基本に謙遜・柔和そして仕える心の態度があるからではないでしょうか。私達もこの慈悲深い神に倣った生き方に預かるために、謙虚で仕える心の姿勢を持ちたいものです。

(文責・Sr.窪寺洋子)